

熊本大学病院 救急部

教授 入江 弘基



令和三年三月一日付で熊本大学病院 救急部教授を拝命しました入江弘基と申します。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は福岡県飯塚市の出身で、久留米大学附設高等学校を卒業後に、熊本大学医学部に入学しました。大学時代は、当時整形外科教室を主催されていた高木克公教授（現名誉教授）が部長を務められていた硬式テニス部で過ごし、平成七年卒業後、熊本大学整形外科教室に入局し、手外科医を目指していました。

平成十五年に高木克公教授（当時）お声掛けで、集中治療部に向向となりました。高次救急・集中治療部では木下順弘教授（当時）のもとで、救急外来対応及び集中治療管理の研鑽を積ませていただき、救急医療を行う基礎を養った期間となりました。

平成二十年には大学病院に「救急外

来」として専従医を配置することとなり、各診療科より出向した六名の医師のうちの一人として参加しました。ここでは、初期診療に対する研鑽を積むとともに、初期研修医の救急研修にも尽力し、救急外来の経験をもとに救急専門医も取得しました。

また、院内の各部署と連携し、年に一回行われる災害訓練開催の実務を担当しました。災害対策の点では、「災害カード」と呼ばれる事前準備セットを作成し、毎年行われる災害訓練で使用することで精度の高いものに出来ました。平成二十六年の熊本地震では、その備えのおかげで初期対応はスムーズに行えたと評価を頂いております。

院外では、熊本大学病院のDMAT隊員として訓練を受け、その後に統括DMATとなり、熊本県災害コーディネーターとして活動を行なっています。熊本地震の際には、水田博志病院長（当時）のもと、熊本市民病院と連絡をとりながら、病院避難のサポートも行いました。

平成三十年三月に大学病院を退職し、熊本整形外科病院に就職しておりましたが、当時病院長であった谷原秀信先生に声をかけていただき、令和二年

七月に救急・総合診療部に講師として戻ってまいりました。救急・総合診療部 松井邦彦教授（現総合診療科教授）とともに、院内の各部署との調整を行いました。大学病院の救急診療に従事してきました。

令和三年三月に、熊本大学病院の組織編成に伴い、救急部へと改組が行われ、救急外来部門を担うこととなりました。今後は、熊本医療圏における熊本大学病院救急部の在り方を考え、地域の救急医療に貢献できればと考えておりますので、皆様方のご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

熊本大学病院がんセンター 外来化学療法センター

教授 野坂 生郷



二〇二一年三月一日付で熊本大学病院がんセンター 外来化学療法センター教授を拝命

いたしました野坂生郷と申します。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私は山口県下関市の生まれであり、平成六年に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学医学部第二内科（現 血液・膠原病・感染症内科）に入局いたしました。成人T細胞白血病（ATL）を発見されました高月清教授のご指導を受け、その後大学院、京都大学ウイルス研究所でATLの病態解明、HTLV-1ウイルスの発癌機構について研究を行いました。国立がん研究センター中央病院にて臨床研修後、熊本大学医学部附属病院血液内科で満屋裕明教授のご指導の元、臨床、研究、教育と携わって参りました。二〇一一年五月からはがんセンター所属となり、外来化学療法センター長として従事し、多くのがん薬物療法について経験して参りました。二〇一五年からは国立国際医療研究センター臨床研究センター開発研究部部長として赴任し、多くの臨床研究実施、推進に携わりました。その後は、熊本大学に戻って参りまして松岡雅雄教授主宰の血液内科、その後感染免疫診療部の所属となり、感染制御部の部長としての活動も行って参りました。二〇二〇年四月から外来化学療法センター長になり、現在もがん薬物療法を行っております。